

施策名	目標3-2 大気生活環境の保全				
施策の概要	騒音に係る環境基準の達成状況を改善させ、騒音・振動・悪臭公害を減少させるとともに、ヒートアイランド対策や光害対策を講じることにより、良好な生活環境を保全する。				
達成すべき目標	自動車・航空機・新幹線騒音等に係る環境基準達成率の向上、振動・臭気の改善、ヒートアイランド対策を講じ良好な生活環境を保全する。				
施策の予算額・執行額等	区分	21年度	22年度	23年度	24年度
	予算の状況(千円)				
	当初予算(a)	349,510	267,277	166,888	112,224
	補正予算(b)				
	繰り越し等(c)			(※記入は任意)	
	合計(a+b+c)	349,510	267,277	(※記入は任意)	
	執行額(千円)	349,000	168,000	(※記入は任意)	
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)					

測定指標	1 騒音に係る環境基準達成率(%)	基準値	実績値					目標値
		年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	年度
		-	80.9	80.5	81.4	81.6	調査中	100
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-	-
	2 騒音に係る環境基準達成状況(道路に面する地域)(%)	基準値	実績値					目標値
		年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	年度
			88.0	89.8	90.6	91.3	調査中	100
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-	-
	3 航空機騒音に係る環境基準達成状況(測定地点ベース)(%)	基準値	実績値					目標値
		年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	年度
			73.8	76.0	74.4	77.8	調査中	100
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-	-
	4 新幹線鉄道騒音に係る環境基準達成状況(測定地点ベース)(%)	基準	施策の進捗状況(実績)					目標
		年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	年度
			42.2	43.1	47.3	51.7	調査中	100
	年度ごとの目標値		-	-	-	-	-	-

施策に関する評価結果	<p>目標の達成状況</p> <p>○騒音に係る環境基準の達成状況は、各年度での測定件数の違い等を考慮する必要があるものの、報告された範囲では近年緩やかな改善傾向にある。 ○自動車騒音に関する環境基準の達成状況の経年変化は、各年で評価の対象としている住居等の違いを考慮する必要があるものの、報告された範囲では近年緩やかな改善傾向にあり、道路に面する地域における環境基準の達成状況は、91.3%となっている。 ○航空機騒音及び新幹線鉄道騒音については、環境基準の達成に向けて継続的に対策を講じており、環境基準達成状況は航空機騒音が77.8%、新幹線鉄道騒音が51.7%であり、長期的には改善傾向にある。 ○騒音・振動に係る苦情件数は近年横ばいであるが、建設作業に係る苦情が増加していること、特に建設作業振動の苦情が全体の6割程度で近年推移していること、交通機関からの騒音に係る苦情も、おおむね横ばいであることから、今後とも必要な対策を図っていく必要がある。 ○悪臭に係る苦情件数は7年連続で減少しているが、サービス業に係る苦情件数の割合は増加傾向にあり、今後とも必要な施策強化等を図っていく必要がある。 ○自動車単体対策について、中央環境審議会中間答申「今後の自動車単体騒音低減対策のあり方について」(平成20年12月)に基づき、自動車の走行の実態、自動車やタイヤから発生する騒音の実態を調査するとともに、騒音の規制手法の抜本的見直しについて検討を行った。 ○ヒートアイランド対策については、対策導入にかかる課題や適応策の考え方等をまとめた「ヒートアイランド対策マニュアル～最新状況と適応策等の対策普及に向けて～」をまとめ、対策の実施を推進した。 ○光害対策の一環でもあるスターウォッチング参加者数は、22年度は8,556人、23年度は5,599人と減少傾向にある。</p>
------------	--

	<p>目標期間終了時点の総括</p>	<p>○騒音については、従来の規制的手法と合わせて、騒音ラベリング等の情報的手法のような規制以外の手法による騒音対策の推進を図る。また、風力発電施設からの騒音・低周波音については測定・評価・予測方法の確立を目指すとともに、低周波音の苦情に適切に対応するため、地方公共団体職員を対象とした講習会を継続して開催する。</p> <p>○悪臭については、簡易な嗅覚測定法を普及促進することで、苦情受付時の機動性向上を図る。</p> <p>○地方公共団体・民間事業者等の取組を支援しつつ、ヒートアイランド対策大綱に基づいた対策を推進する必要がある。</p> <p>○スターウォッチングの参加者が減少傾向にあるので、啓発方法を変更・強化することにより、参加者の増加を図る。</p>
--	--------------------	--

<p>学識経験を有する者の知見の活用</p>	<p>学識経験者を委員とする中央環境審議会騒音振動部会自動車単体騒音専門委員会及び作業委員会並びにタイヤ単体騒音低減対策検討会等を開催し、審議を行った。</p>
------------------------	--

<p>政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報</p>	<p>各年度 騒音規制法施行状況調査(環境省) 各年度 振動規制法施行状況調査(環境省) 各年度 悪臭防止法施行状況調査(環境省) 各年度 自動車交通騒音実態調査報告(環境省)</p>
----------------------------------	---

<p>担当部局名</p>	<p>大気生活環境室 環境管理技術室 自動車環境対策課</p>	<p>作成責任者名</p>	<p>室長事務取扱 粕谷 明 博 西本 俊幸 弥元 伸也</p>	<p>政策評価実施時期</p>	<p>平成24年6月</p>
--------------	---	---------------	---	-----------------	----------------